

Welfare [ウェルフェア]

2019

65

2018年度事業報告

2020年度社会福祉助成事業実施要綱

CONTENTS

P2 理事長挨拶

P3 2018年度事業報告

P8 2019年度社会福祉事業助成先一覧

P10 2020年度社会福祉助成事業実施要綱

P12 くっきり! 福祉の未来形 ~日社済助成事業成果報告~

「共生ケア」の実践発表研修会

社会福祉法人 愛里崇福祉会

高次脳機能障害啓発講演会

一般社団法人 高次脳機能障害者サポートネット

「学校をプラットフォームにしたフードバンクこども支援プロジェクトの推進」

シンポジウム開催

特定非営利活動法人 フードバンク山梨

P18 書き損じはがき収集ご協力をお願い

P19 福祉の共済コーナー

理事長挨拶

公益財団法人日本社会福祉弘済会
理事長 寺田 亮一



平素は私ども公益財団法人日本社会福祉弘済会の活動にご協力・ご支援を賜り誠にありがとうございます。

本会は、昭和48年10月に設立して以来、今日まで40有余年にわたって社会福祉に関連する事業を行ってまいりました。その間、社会福祉助成事業として各種の研修や研究に対し、法人発足の昭和59年より平成31年までに約7億6千万円の助成を行い、社会福祉事業者の皆様を応援してきました。今後も継続してまいりますので、是非ご応募いただきたく存じます。

さて、本会は令和元年7月1日より本部事務所を下記住所へ移転しましたのでお知らせ申し上げます。これを機に職員一同これまで以上に業務に精励してまいります。何卒ご高承のうえ今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

事務所の移転先である亀戸は江東区の北部エリアにあり、東西南北を川(荒川、旧中川、横十間川、小名木川)に囲まれた地形にあります。歴史と文化の町として知られ、江東区で最も古い亀戸香取神社や学問の神として親しまれている亀戸天神などがあります。

また、江戸切子や江戸べっ甲などの伝統工芸品の製造、販売の店がJR亀戸駅周辺にあり、食の面ではくず餅やB級グルメの亀戸餃子等が有名です。

新住所 〒136-0071 東京都江東区亀戸1-32-8
電話番号 03-5858-8125
FAX番号 03-5858-8126

亀戸の名の由来

昔、この地は亀の島と呼ばれる海上の島でした。早くから住民がいたようで、石器時代、古墳時代の遺跡があるといわれています。やがてこの島に亀村と呼ばれる村ができ、村にあった亀ヶ井という湧水が有名になりました。その後、この亀村と亀ヶ井が混ざって「亀井戸村」になったようです。江戸時代、「井」がなくなって亀戸村となりました。

2018年度事業報告

日社済は昨年度においても、社会福祉助成事業をはじめ、アジアの福祉に関する助成、車いすの寄贈・修繕、社会福祉関係者に対する共済事業など、多岐にわたり国内外の社会福祉に寄与する事業・活動を行うことができました。各位のご協力に深謝しますとともに、ここに昨年度の事業について報告いたします。

※2019年3月時点の報告となります。

I. 法人運営事業

1. 監査の実施

開催日	監事監査
平成30年 6月4日	・平成29年度 事業報告(案)について ・平成29年度 決算報告書(案)について

2. 理事会の開催

開催日	理事会	内容
平成30年 6月7日	第22回	(議案) ・平成29年度 事業報告(案)について ・平成29年度 決算報告書(案)について ・第7回定時評議員会の招集について
6月25日	第23回	(議案) ・理事長、常務理事の選定(書面評決)
11月22日	第24回	(議案) ・規程の改正(案)について ・選考委員の選任について (報告事項) ・平成30年度上期事業報告「4月～10月」並びに執行報告 ・日社済「主たる事務所」の移転について
平成31年 3月27日	第25回	(議案) ・社会福祉関係者に係る研修・研究事業に対する助成の決定について ・社会福祉に関する諸活動に対する支援及び助成の決定について ・2019年度事業計画(案)について ・2019年度予算(案)について (報告事項) ・平成30年度下期事業報告「11月～3月」及び執行報告 ・日社済「主たる事務所」の移転について(続報) ・資産の効率的運用について ・その他

3. 評議員会の開催

開催日	評議員会	内 容
平成30年 6月25日	第7回	(議案) ・平成29年度 決算報告書(案)の承認について ・理事の選任について (報告事項) ・平成29年度事業報告

2018年度事業報告

II.社会福祉助成・支援事業

1.社会福祉関係者に係る研修・研究事業に対する助成

(1)社会福祉助成事業(公募助成)

①公募方法

- ア、日社済ホームページに社会福祉助成事業実施要綱を公開(8月)
- イ、社会福祉助成事業実施要綱の改訂版チラシを作成・配布(8月)
- ウ、全国社会福祉協議会のホームページへ社会福祉助成事業実施要綱を掲載(10月)
東京都・大阪府・岩手県社協のホームページへ社会福祉助成事業実施要綱を掲載(9月～10月)
- エ、福祉新聞(11月5日号)に社会福祉助成事業実施要綱を掲載
- オ、Welfare64号(10/1号)に社会福祉助成事業実施要綱を掲載(10月)
- カ、広報誌に社会福祉助成事業実施要綱を掲載(東京都&大阪府社協他)(10月～11月)
- キ、助成金応募ガイド(研究者版・NPO版)に社会福祉助成事業実施要綱を掲載

②応募状況

- ア、応募期間:平成30年11月1日～平成30年12月15日
- イ、応募件数:70件
- ウ、申請総額:2,717万円

③選考経過

- ア、予備選考会
 - ・期 日 平成31年2月5日(火)
 - ・選 考 厚生労働省2名(社会福祉専門官・障害児支援専門官)
 - ・会 場 東海大学校友会館 『有明の間』
- イ、選考委員会
 - ・期 日 平成31年3月6日(水)
 - ・委 員 炭谷 茂氏 大江 尚樹氏 河 幹夫氏 諏訪 徹氏 加納 高仁氏 (順不同)
 - ・会 場 東海大学校友会館 『諏訪の間』

④選考結果 第25回理事会(平成31年3月27日開催)にて決定

- ア、助成件数:49件
- イ、助成額:1,750万円

2.社会福祉に関する諸活動に対する支援及び助成

(1)アジア福祉助成

- ①全国社会福祉協議会と連携して、全社協福祉研修の修了生が帰国後実施する福祉事業へ助成し、日本とアジア諸国の福祉交流の醸成と福祉向上を図る。
 - ア、在宅ヘルスケアの推進(タイ) 30万円
 - イ、地域における研修・訓練プログラム等による地域開発(フィリピン) 30万円
 - ウ、高齢者向け地域保健所(インドネシア) 30万円
 - エ、知的に障害のある子どもたちのデイ・ケア・センター(スリランカ) 30万円
 - オ、路上生活青少年に対する教育プログラムならびに居場所の提供(フィリピン) 30万円
 - 合計 150万円

②全社協(国際社会福祉基金委員会)の主催事業対応

・第35期アジア社会福祉従事者研修生修了式出席(平成31年2月21日)

3.アジア等の障害者への車いす修繕・寄贈等に対する支援・助成

(1)東北復興車いす支援

三陸復興 車いす支援(現地整備活動:『空飛ぶ車いす、東北に行く!!』)

・期 間 平成30年5月2日～5日

・実 施 神奈川工科大学、新潟医療福祉大学

・協 力 女川町社会福祉協議会、大船渡市社会福祉協議会、
大船渡市介護老人保健施設・気仙苑、日本社会福祉弘済会他

・活 動 車いす修理、整備(タイヤ交換・ベアリング交換・錆落とし他)

(2)車いす修理ボランティア活動への支援

①車いすタイヤの購入支援

ノーパンクタイヤの一括購入(台湾:優台有限公司、日本:曾我商会)

②国内修理講習会の開催支援

修理技術の向上と修理活動の促進のための支援

ア、岩手県 車いすフレンズ整備技術講習会

・日 時 平成30年6月28日

・実 施 岩手県社会福祉協議会地域福祉企画部 ボランティア・市民活動センター

・場 所 ふれあいランド岩手「ふれあいホール」

・参 加 盛岡工業高校、千厩高校、水沢工業高校、一関工業高校

宮古工業高校、黒沢尻工業高校、北上市社会福祉協議会

神奈川工科大学、新潟医療福祉大学OB、東日本福祉機器商会

日本社会福祉弘済会

・活 動 車いす修理、整備(タイヤ交換・ベアリング交換・錆落とし他)

イ、高校生・大学生合同修理会(千葉)

・日 時 平成31年2月9日

・参 加 筑波大学附属聴覚特別支援学校、神奈川工科大学

・活 動 車いす点検・修理・整備

③海外修理講習会の開催支援

現地での活動体験及び現地の修理技術向上を目指した講習会の側面援助

ア、『タイ出張修理』 神戸科学技術高校 空飛ぶ車いす研究会

・期 間 平成30年8月27日～8月31日

・場 所 タイ王国

・参 加 神戸科学技術高校、神奈川工科大学KWR、新潟医療福祉大学FWS・OB
日本社会福祉弘済会

・協 力 ホルトサハタイ財団

・活 動 ア)国内作業 ⇒車いすの点検、梱包の徹底実施

イ)現地作業 ⇒車いすの点検、調整・介助講習、贈呈

・寄贈先 個人宅とサコンナコン病院

イ、『空飛ぶ車いすINタイ・2018』(車いす修理交流会)

・期 間 平成30年12月9日～17日

・場 所 スパンブリー

2018年度事業報告

- ・参加 栃木工業高校
- ・活動 タイ王国高校生との修理講習会

(3) 車いす輸送支援

① 車いすの海外輸送実績

平成30年4月～平成31年3月輸送実績合計 720台

―輸送実績の内訳概要―

- ・旅行者等のボランティア(各国) 119台
- ・コンテナ船輸送(スリランカ) 325台
- ・コンテナ船輸送(タイ) 125台
- ・コンテナ船輸送(韓国) 100台
- ・KWR、FWS(台湾) 31台
- ・神戸科学技術高校(タイ) 10台
- ・外務省依頼(マーシャル諸島) 10台

② 車いすの国内配送・海外輸送支援

ア、国内配送費の支援(修理学校⇄空港間など)

国内配送の協力依頼 ⇒ 日通航空へ特別料金の適用

イ、海外輸送費の支援

各航空会社へ ⇒ 車いす(機内持込み荷物)の重量制限基準緩和の協力依頼

(4) 書損じはがき収集の促進

- ① 都道府県・指定都市・市区町村社協への広報(ウエルフェア64号に掲載)
- ② 本会ホームページによる広報展開

4. 広報事業

(1) ホームページによる情報公開、更新

- ① 平成30年度 公募助成団体一覧掲載(4月)
- ② 平成29年度 決算公告用資料の公開(6月)
- ③ 平成29年度 助成事業成果レポートの公開(9月)
- ④ 2019年度社会福祉助成事業・実施要綱の公開(8月)
- ⑤ ホームページURL変更・httpからhttpsへ(10月)
- ⑥ 車いす修理マニュアルの公開(2月)

(2) 広報誌の発行

- ① ウェルフェア63号(日社済ニュース 平成30年4月1日号)

「2018年度 社会福祉助成事業助成先」決定

ア、2018年度 助成金交付団体決定(社会福祉助成・アジア福祉助成)

イ、『福祉最前線』(日社済事業成果報告集より)

- ・一般社団法人 静岡県社会福祉士会
- ・NPO法人 元気・百歳

ウ、『空飛ぶ車いす』

- ・SRILANKAに届け！空飛ぶ車いす2017
- ・車いす修理ボランティア活動に新規挑戦した学校の取り組み
- ・年末のネパールツアー

- エ、福祉の共済コーナー
 - ・拡がる・引き継がれる「空飛ぶ車いす」ボランティア活動
- ②ウェルフェア64号(日社済ニュース 平成30年10月1日号)
 - 「2019年度 社会福祉助成事業実施要綱」決定
 - ア、2019年度 社会福祉助成事業実施要綱
 - イ、『福祉最前線』(日社済事業成果報告集より)
 - ・公益財団法人 広島県社会福祉士会
 - ・一般社団法人 札幌市手をつなぐ育成会
 - ・NPO法人 若年認知症サポートセンター
 - ウ、『空飛ぶ車いす』
 - ・東北活動レポート
 - ・岩手車いすフレンズの紹介
 - ・インドネシア・バリ島の受取ボランティア紹介
 - エ、福祉の共済コーナー
 - ・未来を担う子どもたちの夢と希望を応援する
 - *ウェルフェア(日社済ニュース)の配布先
 - ア、県・指定都市社会福祉協議会、市区町村社会福祉協議会(約1,820か所)
 - イ、車いす修理ボランティア工業高校 他(約60か所)

Ⅲ.社会福祉関係者の共済に係る事業

1.団体保険料収納事業

ジブラルタ生命保険株式会社と提携して、社会福祉法人などの福祉関係法人、社会福祉施設及び関係団体に勤務する役職員、構成員及びその家族を対象に『団体扱個人保険』を取扱い、日社済『福祉の共済事業』として位置づけ、保険料収納事業を実施。

2.会員施設サービス事業

ライフサポートクラブ

会員施設の役職員とその家族に福利厚生サービスを会員価格で利用できる制度を提供。

3.福祉関係者への図書斡旋

新日本法規出版と提携して、福祉関連施設等へ「わかりやすい社会福祉法の手引」ほかの図書斡旋(定価の90%)。実績:92冊(上半期53冊・下半期39冊)

4.その他

45周年感謝の集い開催 (平成30年9月18日)

共済事業に携わった関係者への感謝と更なる共済事業の広報と協力要請。

2019年度 助成金交付団体決定

2019年度の助成金交付先は、研修事業と研究事業を対象として、49団体に1,751万円の助成を決定しました。今年度の公募においては、北海道から鹿児島まで26都道府県の社会福祉法人やNPO、その他任意団体等から合計70件の応募がありました。また、アジア福祉助成については、5団体に約150万円の助成を決定しました。

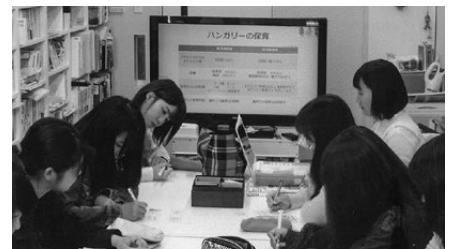
2019年度 助成先一覧

1. 社会福祉助成事業

A. 研修事業 37団体 助成額: 1,199万円

	団体名	事業名
北海道	特定非営利活動法人 コミュニティシンクタンクあうるず	第6回ソーシャルファームジャパンサミット in 札幌
宮城	特定非営利活動法人 みやぎ・せんだい子どもの丘	子どもと関わる大人の現場ですぐに役立つ研修会
宮城	認定NPO法人 みやぎ発達障害サポートネット	2019年度 自閉症・発達障害児者支援セミナー
福島	福島県自閉症協会	自閉症支援トレーニングセミナーの開催
群馬	一般社団法人 日本ファミリーホーム協議会	第14回日本ファミリーホーム研究大会岡山大会
千葉	一般社団法人 A-TRUCK北国分駅前しゃりっこ保育園	発達障害児の子育てと保育について考えるための講演会
千葉	NPO法人 スマイルクラブ	高齢者と障がい者の地域共生型福祉「富山モデル」研修
千葉	特定非営利活動法人 たすけあいの会ふれあいネットまつど	移動サービスボランティア養成講座
東京	社会福祉法人 いのちの電話	ボランティア電話相談員の養成、スキルアップのための合宿研修
東京	社会福祉法人 東京コロニー	「在宅就労セミナー2019」開催～「今後の障害者雇用のあり方検討」から見てきた在宅就業～(仮称)
東京	NPO法人 BASE	地域住民とともに考えるメンタルヘルスセミナー
東京	特定非営利活動法人 絆の会	作業所での木工・伝統技術習得とオリパラリンピックに向けた連携事業
東京	特定非営利活動法人 緩和ケアサポートグループ	精神的な課題を持つ利用者との共生を可能にするための研修会
東京	東大和市レクリエーション協会	心の元気、体の元気支援者育成事業
新潟	新潟医療福祉大学 FWS	車いすの修理とシーティング技術講習会の実施
山梨	社会福祉法人 甲府市社会福祉協議会	広報啓発事業
岐阜	一般社団法人 サスティナブル・サポート	就労支援サービスの支援力向上のための研修
静岡	社会福祉法人 明光会	障害者雇用促進シンポジウム「事例から考える圏域の障害者雇用の仕組みづくり」
愛知	特定非営利活動法人 ささしまサポートセンター	生活困窮者とともに支え合うボランティア育成事業
京都	公益社団法人 認知症の人と家族の会	認知症ケアの向上および制度改善を図るための全国研究集会開催事業
大阪	一般社団法人 日本福祉感染予防協会	福祉施設の現場における感染予防セミナーの開催
大阪	公益社団法人 大阪聴力障害者協会	大阪ろうあ者成人学校
大阪	特定非営利活動法人 トウギャザー	障がい者の工賃アップのための品質向上と法令順守のための研修事業
大阪	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪	介護施設における「楽しみ」の提供と工夫 ～要介護の高い利用者の喜びにつなげるために～
兵庫	社会福祉法人 ヨハネ会 いたやど障害者地域生活支援センター	神戸市地域支援機能強化事業

助成先の研修会・講習会の様子



(社会福祉助成・アジア福祉助成)

	団体名	事業名
兵庫	一般社団法人 パーマネント・クリエイティブ・マインド	自閉症スペクトラム障害の子どもへのエビデンス(科学的根拠)のある支援についての研修事業
兵庫	特定非営利活動法人 播磨オレンジパートナー	第4回西播磨認知症ケア実践研修
兵庫	特定非営利活動法人 宝塚高次脳機能障害者共生の会	高次脳機能障害に関する講演会
兵庫	神戸市立科学技術高校「空飛ぶ車いす研究会」	車いす修理講習会の実施
奈良	一般社団法人 なら人材育成協会	地域における子ども・若者支援実施研究事業
奈良	生駒市老人クラブ連合会	いこいこサポーター養成講座
奈良	なんとカンファレンス実行委員会	なんとカンファレンス2019夏
島根	えくぼ	えくぼニコニココンサート
福岡	一般社団法人 久留米健康くらぶ	認知症カフェ事業の3つの育成研修
福岡	特定非営利活動法人 障害者より良い暮らしネット	北海道伊達市の先進事例「重度・高齢障がい者対応グループホーム」の実践を学ぶ
佐賀	双子・三つ子サークルグリーンピース	「ふたご手帖」を用いた専門職向け多胎家庭支援研修
鹿児島	特定非営利活動法人 オレンジハート	福祉事業所における若年性認知症ケアを考えるシンポジウム

B. 研究事業 12団体 助成額:552万円

	団体名	事業名
北海道	特定非営利活動法人 レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク	札幌圏ひきこもり地域拠点型居場所移行支援開発事業
宮城	社会福祉法人 東北福祉会	「サポーターズカフェ」による認知症サポーター・ダブルリンクの試みと効果の考察
東京	一般社団法人 美和せら心理研究所	「フラワー心理セラピー」を用いた高齢者の社会的フレイル防止の可能性についての研究
東京	一般社団法人 オリパラKAIGO Next Action	主要高速道路のサービスエリア・パーキングエリア(SAPA)におけるバリアフリー調査の実施および成果の活用
東京	公益社団法人 東京社会福祉士会	刑事司法ソーシャルワーク活動の検証
東京	特定非営利活動法人 風雷社中	知的障害者の自立生活を支えるネットワーク・プラットフォーム構築
東京	公益社団法人 日本チャリティ協会	パラアート(障害者アート)国際交流活動事業
神奈川	特定非営利活動法人 フューロLD発達相談センターかながわ	民間機関の療育的指導に参加した発達障がいのある方々の予後についての研究事業Ⅱ
愛知	社会福祉法人 仁至会	介護サービス提供時間中における認知症の人の社会参加活動に関する実態調査
愛知	特定非営利活動法人 こどもサポートネットあいち	児童養護施設職員の働く環境に関する調査研究 -職員が継続的に働ける職場及び再就職が可能な環境について-
長崎	特定非営利活動法人 アジア地域福祉と交流の会	「マレーシアにおける福祉の研究」
鹿児島	社会福祉法人 西之表市社会福祉協議会	よろ〜てアクティブ農福クラブ

2. アジア福祉助成事業

国	所属	事業名
フィリピン	Bahay Tuluyan Foundation, Inc., Manila	ホームレス家庭向け能力訓練
タイ	Neo-Humanist Foundation BaanUnrak Learning Center	バーンウンラック学習センターでの至福の料理 -昨年からのプロジェクト-
タイ	Group of Thai's Ex-Trainees of Zenshakyo	健康な生活のための食事 -昨年からのプロジェクト-
スリランカ	Shahana Sarana Social Welfare Foundation	障害者の心身の健康増進
インドネシア	Yayasan Hikari no Chiiki Fukushi	廃棄物銀行の顧客家庭および農家のための収入創出および社会サービス -昨年からのプロジェクト-

助成先の研修会・講習会の様子



社会福祉助成事業 実施要綱

申請期間:2019年11月1日~2019年12月15日(消印有効)

2020年度日社済「社会福祉助成事業」のご案内

公益財団法人日本社会福祉弘済会は、少子高齢化が進展し、多様化する福祉需要のなかで社会福祉の向上を目指した“研修事業”や“研究事業”に助成することにより、豊かな福祉社会の実現に寄与することを目的といたします。

2020年度も下記の通り、社会福祉関係者(社会福祉施設等社会福祉事業に従事する方々等)に係る研修・研究事業に対して、公募による助成事業の募集を行います。

1 助成対象事業と助成対象経費

【研修事業】

①対象事業

- 福祉施設職員の方などを対象としたケース

福祉施設職員等が幅広い視野と専門性を持って福祉サービスの支援業務向上に携わるために実習する研修事業

- 地域住民の方などを対象としたケース

福祉サービスのあり方や専門的知識・技能の習得などをテーマとして開催される集合研修事業(研修会、セミナー、講演会など)

②対象経費

- 講師謝金・交通費・宿泊費・会場費・報告書作成費

【研究事業】

①対象事業

- 福祉サービスの向上等を目的とした先駆性ある事業の実践を通して行われる研究事業

- 社会福祉関係者の専門性の向上、現任訓練の方法や体系、また就労、福利厚生などをテーマとする調査研究事業

②対象経費

- 研究事業費・調査経費・謝金・原稿料・報告書作成費

2 事業実施期間と助成金額

①事業実施期間

2020年度(2020年4月から翌年3月末)中に実施される事業

②助成金額

1件(1団体)あたりの上限額50万円(総額2,000万円以内)

※助成対象経費合計の80%以内かつ50万円以内となります。



3 申請条件

- ①申請団体は社会福祉事業や福祉施設の運営、福祉活動などを目的とする社会福祉法人、福祉施設、福祉団体などとしします。(申請は1団体、1事業としします。)
- ②法人格のない任意団体、グループは申請書下段に市区町村社会福祉協議会の推薦を得て、申請書をご提出ください。
- ③反社会的勢力及び反社会的勢力と関係すると認められる法人、団体からの申請は受けられません。
- ④助成対象となった場合、団体名、代表者氏名、所在地、事業内容、助成金額等を公表させていただきます。また、実施事業に参加もしくは事後に訪問させていただくことがありますので、ご了承の上お申し込みください。

4 申請方法

- ①申請書 2019年9月以降に、日本社会福祉弘済会のホームページ(<https://www.nisshasai.jp/>)をご覧ください。申請書用紙等はホームページからダウンロードの上、ご使用ください。
 - ②申請期間 2019年11月1日～2019年12月15日(消印有効)
 - ③提出先 〒136-0071 東京都江東区亀戸1-32-8
公益財団法人日本社会福祉弘済会 助成事業係 ☎ 03-5858-8125
- ※申請書に記載されている個人情報は本事業の選考に関わる業務のみに使用し、それ以外には使用いたしません。

5 添付資料

申請時に下記資料を添付の上、申請書と共にご提出ください。

- ①申請団体の定款(任意団体は規則、規定)
- ②申請団体紹介パンフレットや団体発行の機関誌など
- ③申請団体の直近の事業報告、決算書
- ④申請団体の役員(会員)名簿

6 審査と結果通知

- ①申請案件は厚生労働省専門官の予備審査後、選考委員会の選考を経て、理事会(3月開催)で決定します。
- ②選考結果は採否に関わらず決定後、各申請団体に書面にて通知いたします。
- ③申込み書類は返却いたしません。

7 事業完了報告書の提出

助成事業終了後1ヶ月以内に、事業完了報告書をご提出ください。
※事業完了報告書の作成要領は、助成決定時にご通知いたします。

●助成事業成果報告

「共生ケア」の実践発表研修会

社会福祉法人 愛里巣福祉会
理事長 竹澤 結花

1. 団体の紹介

当法人は、石川県金沢市に法人本部をかまえ、金沢市と野々市市と高崎市で事業を行っています。幼保連携型認定こども園（2か所）、放課後児童健全育成事業（13か所）、児童厚生施設、認知症対応型老人共同生活援助事業、障害者福祉サービス事業（3か所）を運営しています。

2. 助成事業概要



今回の実践発表研修報告会は、「共生ケアに関する理解を深めると共に、ケアの本質を再考すること」を目的に開催しました。

実践発表研修報告会をとおして参加者が、障がい者や認知症高齢者の自己実現に向けた取り組みを知ることや、障がい者支援・高齢者介護について、ケアの本質を再考することにより、親や支援者（施設関係者）の資質の向上が図られ、質の高い支援が行われることをめざしました。

このことにより、業務中心の障がい者支援・高齢者介護が解消され、更なる「共生ケア」の取り組みが促進されると考えます。開催時期は、参加者が参加しやすい12月初旬の土曜日とし、テーマを「共生ケアの実践発表研修報告会」として、職員から実践事例発表と二人の外部講師から助言をいただくことにしました。



3. 事業の成果

参加者の内訳は、当事業所利用者22名、保護者11名、法人職員16名、外部講師2名、合計51名でした。研修報告会後のアンケートには、当事業所利用者（19名回答）から、「施設外就労で、こんな風に貢献できているのかと実感し、自分も自分にできることで貢献したい。」「普段とは違う職員の対応に緊張感がありました。とても丁寧でした。」との声が寄せられました。さらに保護者（4名回答）からは、「ありがとう」の言葉が大事だと感じた。他にも自分の存在が認められることが大切だと思った。」「個々に合ったサポートをお願いします。この取り組みの継続と他施設への提案、業界全体の発展に繋げてほしい。」などの声が寄せられました。

実践発表研修報告会をとおして、参加者には障がい者や認知症高齢者の自己実現に向けた取り組みを知っていただくことができました。また私たち支援者は共生ケアにより、支援者本来の役割を見直す機会を得ることもできました。さらには外部講師の総評より、共生ケアが障がい者、認知症高齢者の関係性のみではなく、支援者も含めた「三位一体」で成り立っていると聞いた、新たな発見もありました。

今回見えてきた共生ケアの可能性や当事者の背景に理解を深め、今後も障がい者の将来や認知症高齢者の

持っている力を引き出しながら、障がい者・認知症高齢者が社会に必要とされる機会をマッチングさせていけるよう取り組んでいきます。また実践を積み上げていながら愛里巣福祉会が中心となって「共生ケア」を地域に発信していけるよう取り組みを続けていきたいと思っています。



介護に陥っていないか、警鐘を鳴らし続ける意味でも継続します。また「ケアの本質」を見失わないために、また障がい者の将来、今後をも見越しながら、取り組んでいきます。

4. 成果の広報・公表

今回の実践事例発表研修報告会については、事前に封書にて告知し、開催後には、毎月発行している広報誌「ハッピー通信」に掲載し、事例発表の概要や参加者の感想等を100名ほどの施設利用者に紹介しました。

また、今回の実践事例発表研修報告会の内容を「平成30年度（公財）日本社会福祉弘済会助成事業共生ケアの実践発表報告書」として冊子にし、印刷後に全施設利用者に配布する予定になっています。

さらに当法人のホームページに、「共生ケア」の実践報告書を掲載し、啓蒙普及を図りたいと考えています。

5. 今後の展開

参加者からは、「当事者の話も聞いてみたかったです。」「自分達の良い所も悪い所も話しながら、就労などの目的に向けて助言をもらえる場(施設)であってほしい。」などの声が寄せられていることから、今後、実践事例発表研修会を開催するにあたってはこれらの意見も参考にしながら、テーマや内容、講師を選定したいと考えています。

今後も職員主体、業務中心の障がい者支援・高齢者

●助成事業成果報告

高次脳機能障害啓発講演会

一般社団法人 高次脳機能障害者サポートネット
代表 中山 猛

1. 団体の紹介

高次脳機能障害者をはじめとする障害のある人やその家族に対し、福祉サービスやその他の社会資源を活用し支援することにより、障害のある人もない人も共に当たり前で暮らせる社会を実現することを目指しています。就労継続支援B型事業「珈琲焙煎工房Hug」を運営し、珈琲豆の選別、焙煎、ドリップバッグの作成、販売等を行い、障害のある人の就労の場として活動しています。心のリハビリとして臨床心理の先生に月に2度セッションをしていただいたり、調理実習・絵がみなどの余暇活動にも力をいれています。

2. 助成事業概要

実施目的：高次脳機能障害についての正しい知識の普及と情報提供を行い、当事者の社会復帰、社会参加につなげていくため

開催日時：平成30年6月17日（日）13時～16時

開催場所：宝塚ソリオホール（阪急宝塚駅 徒歩2分）

内容：高次脳機能障害啓発講演会（144名参加）

対象：高次脳機能障害当事者・家族・支援者・一般市民

内容：高次脳機能障害についてリハビリテーション専門医の榎間医師（医療法人社団敬智会梶原病院・NPO法人高次脳機能障害支援ネット理事）に、高次脳機能障害、認知症・発達障害も含めた病態の説明とポジティ



ブな行動支援方法についてお話していただきました。

平成29年度の珈琲焙煎工房Hugの活動についてスライドショーを使って報告しました。

ソリオホールのロビーで珈琲焙煎工房Hugの利用者による商品の販売活動を行いました。



3. 事業の成果

今回の講演会では、当事者家族だけではなく、福祉・医療関係の支援者の方にも多くご参加いただきました。チラシを地域包括支援センターなど、介護関係の事業所にも配布した効果だと思えます。

高次脳機能障害は見た目にはわかりにくく、症状も人それぞれのため、家族・支援者にとっても対応が難しいと言われています。テーマは『高次脳機能障害・認知症・発達障害のための邪道な地域支援講座』として、榎間先生にお話していただきました。「邪道な」というのは、先生の著書からとったものですが、先生は邪道だとする理由として、1つ目は高次脳機能障害・発達障害・認知症をひとくくりにして脳の機能障害としてとらえていること。2つ目は脳機能解剖を、動物脳と人独自の脳の相互作用という観点でとらえているということ。3つ目はマンガをたくさん使っていることとされています。

当事者のもつ問題の原因を疾患で考えるのではなく、原因が何であっても役に立つ共通対応を中心にお話していただきました。問題を改善させるには注意してや



めさせるよりも、気をそらせた方がうまくいくことや、当事者の理解が深まる記憶障害のとらえ方、注意機能の訓練にもなるコミュニケーションの方法などについて教えていただきました。ポジティブな行動支援をするためには、共感の気持ちと社会的視点の両方をうまくバランスをとっていくことが大切だというお話はとても新しい視点で家族や支援者にとっても有益な情報となりました。講演の途中では実際にワークをするという場面もありました。マインドフルネス訓練を行い、自分の注意の状態を自覚するという体験をしました。さらに、共同注意のワークとして親しい人と手をつないで自分の呼吸を数えると相手の呼吸数と近くなるという体験も行いました。共感は本当に体から体へ伝わるといえることを感じてもらったのではと思います。休憩をはさんで2時間という長い時間でしたが、たくさんの情報を効果的にお話していただき、来られた方にとってもわかりやすく役立つ内容でした。

最後に珈琲焙煎工房Hugでの活動をスライドショーでご覧いただきました。珈琲豆の選別作業などは、なかなかイメージしにくいと思いますが、写真で見ていただくことにより、作業の内容についても理解が深まったと考えられます。その他の様々な活動についてもお話だけよりもよく伝わったと思います。



ロビーでの販売活動は、利用者さんたちにとっても自分たちの作った商品を買っていただける大変貴重な体験となりました。販売で得た売上はすべて利用者さんの工賃となります。こうした活動の中で日頃の作業への取り組みにも変化が出てくるとおもわれます。

4. 成果の広報・公表

利用者さん向けには、講演会当日の写真を載せたプリントを配布し、対外的には法人のホームページブログとFacebookにて広報しました。また、先生が当日のワークのデータについてもフィードバックしてくださっていて、その内容についても掲載させていただいています。

ホームページURL <http://sptnet.org/>

5. 今後の展開

今回で当法人が主催する講演会は4回目となりました。助成金をいただけたことで、東京から榎間先生にお越しいただけることになりました。

高次脳機能障害は障害そのものがまだ広く社会に知られておらず、今後も啓発活動を続けていかなければならないと感じています。

アンケート集計結果にもありますが、とりあげてほしいテーマも多岐にわたります。希望が多かったのは、心理面のケア、就労支援でした。また、小児への関心も高かったです。高次脳機能障害の当事者というのは大人だけではなく、小児・児童の場合もあります。就学や復学という課題があるにもかかわらず、支援者がほとんどおらず家族も困難を抱えています。また、高次脳機能障害の親をもつ子どもたちへの支援もほとんどありません。実際に困っている人たちのもとへ支援をつなげられるように、私たちも日頃から地域の民生委員さんや就労支援機関、学校などと連携していきたいと考えています。

また、講演会でとりあげるテーマも様々な角度から検討し、地域社会生活から専門的な内容のものまで幅広く啓発していきたいです。

また、珈琲焙煎工房Hugという作業所を中心とした地域とのつながりや家族、支援者同志のつながりを大切にして活動を継続していきたいと思っています。

●助成事業成果報告

「学校をプラットホームにしたフードバンク子ども支援プロジェクトの推進」シンポジウムの開催

特定非営利活動法人 フードバンク山梨
理事長 米山 けい子

1. 団体の紹介

既存の社会資源と協働する支援体制構築に特色。「食のセーフティネット事業」では福祉課等と連携し、被支援者の家族構成やライフラインの状況に応じた食料支援と共に、手書きの手紙同封、訪問相談等による自立支援を促す。学校と連携する「フードバンク子ども支援プロジェクト」、保育協会等と連携する「乳幼児応援プロジェクト」、学習支援の場「えんぴつひろば」の毎週開催など、見えてこない貧困状況の子どもの把握と各種支援を継続中。



2. 助成事業概要

目的：連携による子どもの貧困対策を広く地域住民に周知し、活動への参加を促す。

- ・日時：平成30年8月25日（日）13:30～16:00、会場：山梨県立図書館多目的ホール



・シンポジスト：

湯浅誠氏（社会活動家・法政大学教授）、田中正清氏（中央市教育長）、伊藤史恵氏（文部科学省生涯学習政策局参事官）、米山けい子（弊会理事長）。コーディネーター：川村岳人氏（大分大学福祉健康科学部講師）

・内容：

【放映】「フードバンク山梨10周年のあゆみ」

【話題提供】

「学校と連携して支援することの必要性」（湯浅氏）

「学校から見える子どもの貧困」（田中氏）

「学校をプラットフォームとした総合的な子供の貧困対策の推進」（伊藤氏）

「フードバンク子ども支援プロジェクトの実践」（米山）

休憩中に参加者から付箋に質問記入、前面ボードに貼付け。質疑応答・アンケート記入後、16:00に閉会。

- ・参加費を無料とし、駐車場利用料を3時間分負担。
- ・平成31年3月、報告書「10周年記念誌」発刊。



3. 事業の成果

- ・参加人数：合計113人。内訳：一般90人、学生5人、議員14人、行政機関9人、関係者18人。
- ・報道機関：7社（共同通信社、NHK、朝日新聞、読売新聞、農業新聞、山梨放送、山梨日日新聞）
- ・アンケート回収：60枚（回収率 53%）
- ・多くの参加者が活動に共感され問題意識を持ったことが、記述部分の回答から伺えた。特に、行政や民間等、団体間の連携が重要だという意見が多数みられた。また、個人でできることとして、「貧困世帯が存在する」ということを認知し、フードバンク等の活動を通じ、できることをできる範囲で始めていきたいという意見もあった。一方、各登壇者の講演時間が短いという意見、自身の周りでは貧困の実感がないため、報道やSNSでの発信等により、ひとりでも多くの人々に「子どもの貧困」の実態や弊会の活動周知が必要という意見もあった。
- ・フードバンク山梨設立10周年記念誌は、1000部発行した。4ページに渡りシンポジウムを掲載し、パネリストの発言を収録することで臨場感が味わえるように構成した。今後、行政機関・企業に配布し、活動への支援を拡大する。



4. 成果の広報・公表

報道機関に対し、電話・ファックスでシンポジウムの取材を依頼。地元新聞社が事前告知を掲載したことで、当日の参加者増につながった。当日の様子をフェイスブックで公表するとともに、年度末に記念冊子を発行して配布する。

- 8月22日 事前告知、山梨日日新聞「フードバンク山梨10周年 25日にシンポジウム」
- 8月25日 当日、報道機関7社の取材あり
- 8月26日 報道、山梨日日新聞「フードバンク山梨が10周年シンポジウム」
- 8月28日 ユーチューブに「フードバンク山梨10周年記念映像」公開
- 3月27日 記念冊子を発行

5. 今後の展開


食料支援をキーワードに、見えない貧困を可視化し支援する試みは、3段階目に入った。最初は、行政の福祉課経由による申請である。今回、第2段階として教育委員会と連携し、小中学校を通して支援申請書を配布するスタイルは、一定の成果を挙げつつある。今後は、第3段階として行政機関の子育て支援課や保育協会を通しての乳幼児支援を強化していく。

いずれの段階でも当事者への調査研究を実施し、本当に支援を必要とする世帯に必要な支援が届いているかを検証している。また、国の政策として実施できるような種々のアプローチを行なっていく。

いつでも、誰でも「はがき1枚」から参加できる ボランティア活動。

—「書き損じはがき」の収集にご協力をお願いします—

「空飛ぶ車いす」は、日本で使われなくなった車いすを
日本の工業高校生が修理・再生して
アジアに贈るボランティア活動です。



「空飛ぶ車いす」は、
多くのボランティアに支えられています。

はがき収集 ボランティア

全国の「はがき収集ボランティア」から届けられた「書き損じはがき」を切手に交換し、さらに企業等の協力により切手を現金化して“パンクしないタイヤの購入費用”や“工業高校から国際空港までの車いす輸送費用”に充てています。

修理 ボランティア

工業高校のクラブ活動や有志、生徒会などで車いすの修理を行います。

輸送 ボランティア

ビジネスや観光などでアジア各国を訪問する際に、搭乗機手荷物として運びます。

ご寄付をいただいた皆さま

(平成30年1月～12月)

数ある団体の中から当会の趣旨に賛同いただきご寄付を賜りました皆さまに
感謝申し上げます。温かいご支援ありがとうございました。

(敬称略・順不同)

新居浜市ボランティア・市民活動センター
盛岡医療福祉専門学校
医療法人社団 紫雲会 千葉南病院
遊馬 博之
志免町総合福祉施設
株式会社剣建築設計事務所
兵庫県立相生産業高等学校
兵庫県立東播工業高等学校
三菱総研DCS株式会社
いわて平泉農業協同組合
岐阜県立海津特別支援学校
阿見町社会福祉協議会
NPO法人ワーカーズ・コレクティブ たすけあい せや

ノートルダム清心中・高等学校
福岡県立浮羽工業高等学校
神栖市社会福祉協議会
竹谷 尚人
岩手県社会福祉協議会
神栖市社会福祉協議会 波崎支所
門真市社会福祉協議会
山形市社会福祉協議会
唐津市社会福祉協議会
宗像 加代
石井 瑞江
中村 久美子
ジブラルタ生命保険株式会社

お問い合わせ・
はがき送付先

公益財団法人
日本社会福祉弘済会

〒136-0071 東京都江東区亀戸 1-32-8
URL ▶ <https://www.nisshasai.jp/>
TEL. 03-5858-8125 FAX. 03-5858-8126

Magic of the Dream

ジブラルタ生命の社会貢献活動

▶ ドリームナイト・アット・ザ・ズー

障がいのある子どもたちとご家族を動物園や水族館に招待し、気兼ねなく楽しいひとときを過ごしてもらう国際的なイベント、ドリームナイト・アット・ザ・ズー。当社は、このイベントを実施している動物園・水族館を2012年からサポートしています。各プログラム当日は、子どもたちとご家族の皆さまに、楽しい思い出を残していただけるよう、各地域の当社社員がボランティアスタッフとして、参加しています。



▶ ドリーム・スクール・キャラバン

全国の小学生を対象に47都道府県をキャラバンしていくプログラムです。2019年のドリーム・スクール・キャラバンは、「走力up!教室」「バスケットボール教室」「体操教室」の3種目を23都県で実施しています。各教室では、現役プロ選手、元日本代表選手、アスリートやコーチなど、その道のプロたちが講師を務め、素晴らしい技術の披露や、実践的な指導を通じて、“未来を担う子どもたち”を応援します。

PRUDENTIAL SPIRIT OF COMMUNITY

▶ ボランティア・スピリット・アワード

「ボランティア・スピリット・アワード」は、「称える」「交流する」「発信する」という3本の柱で、ボランティアに取り組む中学生・高校生を応援しています。今では、日本、アメリカをはじめ、世界各国で開催される国際的なプログラムに発展し、受賞者の中から毎年2名を「米国ボランティア親善大使」として、ワシントンD.C.で行われる全米表彰式に派遣しています。



社会貢献活動への“想い”

親会社である米国プルデンシャル・ファイナンシャルは、本業を通じて「経済的な保障と心の平和」を社会に提供すると同時に、「社員一人ひとりが地域コミュニティに貢献することにより、会社と地域がともに成長すること」を大切にしています。

私たちジブラルタ生命は、プルデンシャル・ファイナンシャルが大切にしている“想い”と、当社の企業理念に沿った社会貢献活動に積極的に取り組んでいくことで、企業としての社会的責任を果たしていきたいと考えています。

そしてその想いのもと、当社社員が全国各地でさまざまなボランティア活動に主体的に関わっていますが、中でも「子ども」と「地域」をテーマにした活動に力を入れて取り組んでいます。



くっきり! 福祉の未来形

ニッ シャ サイ 日社済の 主な事業



社会福祉助成事業

公募による社会福祉関係者の研修・研究事業等への助成を行っています。



アジア福祉助成事業

全国社会福祉協議会と連携した福祉の国際協力パートナーの養成と、その活動の支援・助成を行っています。



空飛ぶ車いす支援事業

アジア等の障害をもつ方々への車いす修繕・寄贈を支援しています。



社会福祉関係者の共済に関わる事業

福祉関係者の福利向上のために提携会社を通じて団体扱生命保険を提供しています。



公益財団法人 日本社会福祉弘済会

〒136-0071 東京都江東区亀戸1-32-8 TEL.03-5858-8125 <https://www.nisshasai.jp/>